

入学後に入った引佐耕作隊の一員として2019年度、浜松市北区引佐町の久留女木の棚田で、耕作放棄地を活用した米の栽培に取り組んだ。商品化した米「久留女木 棚田の恵」の販売を20日から大学生協などで始めた。名古屋出身。19歳。

―活動内容は。

「米の販売を通じて、棚田の役割を都市部の人に伝えるのが狙い。河川に流れる水の量を調整して洪水を緩和する機能など、実は都市部の人も棚田の恩恵を受けている。棚田の役割を表した絵柄を商品にデザイン

棚田米の栽培を初めて体験した静岡文化芸術大の学生

すずき よしひと
鈴木 義人 さん (中区元浜町)



この人

し、活動の目的が伝わるよう工夫した」

―活動の感想を。

「シカの食害に遭い、収穫までには苦労が多かった。作業に慣れるまで体力的にもきつかったので、大きく実った稲穂を見たときは安心した」

―参加したきっかけは。

「高校3年時にオープンキャンパスで引佐耕作隊を知った。活動に興味を持ち進学先に選んだ。街中で育ったので、初めて棚田を訪れた際は壮大な景観に感動した」

―将来の目標は。

「地方公務員として中山間地の支援に携わりたい。棚田周辺の住民から生活の苦労を聞き、力になりたいと思った。在学中は引佐耕作隊の活動を続けて、自分が中山間地で何ができるのかを考えたい」

◇

趣味は音楽鑑賞。
(浜松総局・柿田史雄)